

会 議 録

会 議 の 名 称	令和6年度第1回弘前市子ども・子育て会議
開 催 年 月 日	令和6年10月9日（水）
開 始 ・ 終 了 時 刻	14時00分 から 15時15分まで
開 催 場 所	弘前市役所 市民防災館3階 防災会議室
議 長 等 の 氏 名	佐藤 三三
出 席 者	<ul style="list-style-type: none"> ・佐藤 三三 会長 ・三橋扶弥子 委員 ・笹森 麻野 委員 ・相澤 純子 委員 ・相馬加寿子 委員 ・成田 正彦 委員 ・廣田 恵里 委員 ・柿崎 良樹 委員 ・相馬 玲子 副会長 ・金子 泰雅 委員 ・鎌田 裕恵 委員 ・工藤 武久 委員 ・對馬 大輔 委員 ・安川由貴子 委員 ・佐藤 亘 委員
欠 席 者	・工藤 淳治 委員
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	<ul style="list-style-type: none"> ・健康こども部長 佐伯 尚幸 ・こども家庭課長 清野 悟 ・こども家庭課参事課長補佐兼駅前こどもの広場所長 村田 善彦 ・こども家庭課長補佐 太田 宏之 ・主幹兼健全育成係長 佐々木 健一 ・主幹兼母子保健係長 土岐 暖子 ・子育て相談係長 北畠 龍 ・子育て包括支援係長 小枝 信也 ・保 育 係 長 福田 育子 ・保 育 係 主 事 工藤 隼人
そ の 他 出 席 者	株式会社サーベイリサーチセンター東北事務所 営業企画課長 橋本 亜希子
会 議 の 議 題	<p>(1) 令和5年度弘前市子ども・子育て支援事業計画実績報告について</p> <p>(2) 第3期弘前市子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査結果の中間報告について</p> <p>(3) その他</p>

<p>会 議 結 果</p>	<p>(1) 令和5年度弘前市子ども・子育て支援事業計画実績報告について、事務局より説明した。</p> <p>(2) 第3期弘前市子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査結果の中間報告について、サーベイリサーチセンターより説明した。</p> <p>(3) 第3期弘前市子ども・子育て支援事業計画策定に係るスケジュールについて、事務局より説明した。</p> <p>(4) 出席委員から意見を得た。</p>
<p>会 議 資 料 の 名 称</p>	<p>資料1-1、1-2、1-3 令和5年度弘前市子ども・子育て支援事業計画実績報告について</p> <p>資料2 第3期弘前市子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査結果の中間報告について</p> <p>資料3 第3期弘前市子ども・子育て支援事業計画策定に係るスケジュール案について</p> <p>その他資料 第2期弘前市子ども・子育て支援事業計画 (R6.3.29改訂)</p>
<p>会 議 内 容</p> <p>(発 言 者 、 発 言 内 容 、 審 議 経 過 、 結 論 等)</p>	<p>○開会</p> <p>【司会】 「令和6年度第1回弘前市子ども・子育て会議」を開会いたします。</p> <p>はじめに、健康こども部長の佐伯から挨拶を申し上げます。</p> <p>(健康こども部長より挨拶)</p> <p>続きまして、本日の会議案件の1つであります、第3期弘前市子ども子育て支援事業計画に関するニーズ調査の中間報告についての説明者を、改めてご紹介いたします。調査委託事業者である株式会社サーベイリサーチセンター東北事務所企画営業課長の橋本亜希子様です。</p> <p>次に子ども・子育て会議事務局の紹介をさせていただきます。</p> <p>(こども家庭課長より事務局の紹介)</p> <p>続きまして、委員の異動等に伴い、後任として新たに委員となられた方をご紹介いたします。</p>

(新任委員の紹介)

本日ご出席の委員は15名で、欠席は1名となっておりますが、委員の半数以上が出席されておりますので、弘前市子ども・子育て会議条例第5条第2項の規定により会議成立とさせていただきます。

【議長】

案件(1)について、事務局から説明をお願いします。

●案件(1) 令和5年度弘前市子ども・子育て支援事業計画実績報告について

【事務局】

(資料1-1. 1-2. 1-3に沿って、各担当より順次説明)

【議長】

ご意見、ご質問、ご感想等ございますか。

【委員】

説明の中の、10ページ⑥子育て短期支援事業のうちのショートステイ事業の令和6年度の量の見込みが、令和5年度の実績と比べると、6割程度まで減っている理由。12ページ⑧一時預かり事業の量の見込みが、幼稚園での預かり保育は、昨年度に比べて大分、減っている一方、保育所での一時預かりが11,000から18,000へ、すごく増加している理由。15ページの⑩の放課後児童健全育成事業で、放課後の児童の数は、登録者数と利用者数のどちらなのか。この3点について教えていただきたい。

【事務局】

ショートステイ事業は、令和2年度に開始して以降、利用数は増加しているが、令和5年度中盤頃から、児童相談所による、いわゆる措置、一時保護等の件数が増加したことにより、ショートステイ事業に充てられる施設の空き等が減少している状況にあります。令和6年度の量の見込み66件は、令和3年度あたりで見込んだ量の見込みを、そのまま利用したものだが、現在は、実施施設の確保、里親の確保等の施策を継続しており、本来、増加の数字に改めるべきところだったが、

数字がそのままとなっていたので、お詫び申し上げます。

【事務局】

一時預かり事業について、幼稚園での預かり保育が増える要因は、幼稚園は4時間しか預けられる時間がないが、共働き世帯の増加により、預けられる時間以上利用したい保護者が増えたことが増加の要因となっています。保育所での一時預かりは、保育所と認定こども園を利用する人数が増えているということもあるが、保育所から認定こども園に移行した施設が増えたことにより、保育所の一時的預かりの方の利用者が減り、認定こども園の方が増えました。

【事務局】

放課後児童健全育成事業の量の見込み、実績人数は、登録者数を掲載しています。なお、参考までに、利用者数というのは実際の登録人数に比べて約6割から7割程度の利用者数になっています。

【委員】

今の最後のお話で、前回と同じ話になるが、登録者数より実際の利用者数が大事で、その上での1人当たりの面積を検討すべきだと思うというのは、前回もお話した通りです。

あと、別な話で再三出てくる、共働き世帯の増加というのが、実際、市の方では、増加数を把握しているのか。把握していれば、次回の会議でお知らせいただきたい。

【事務局】

現在、第3期の計画策定に向けてニーズ調査を実施しており、その中で、家族形態や、就労状況も調査内容に含まれているので、そこで把握できます。

【委員】

資料1-1、2ページで質問です。乳児家庭全戸訪問事業の事業内容が、生後4ヶ月までの乳児がいる全ての家庭となっているんですが、これはいわゆる母子手帳を渡した家庭を把握しての全てということになりますか。

【事務局】

出生届を出されてる家庭を把握していて、赤ちゃんのいる

ところに訪問するということになっています。

【委員】

転勤してきた方とかも全て把握はできているということですか。

【事務局】

そのとおりです。乳児がいる家庭を、こちらで把握しているので、引っ越し前に訪問していない場合は、当市で訪問することになっています。

【議長】

その他いかがでしょうか。

(発言なし)

それでは、案件（２）に移ります。サーベイリサーチセンターからご説明をお願いします。

●案件（２）第３期弘前市子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査結果の中間報告について

【サーベイリサーチセンター】

(資料２に沿って説明)

【議長】

ご意見、ご質問、ご感想等ございますか。

【委員】

この報告書を見て最初に感じたのは、病児・病後児あるいは一時預かりを利用する必要がないと思っている保護者が、かなり多いというので、意外に思いました。

これはデータに基づくものではないですが、私の小児科の先輩で、青森市で開業当初、昭和の時代から病児保育をやっていました。その当時は、そういうのをやっている医療機関はなかったです。その先生が何十年もやって、最後に感じたことは、病気の時は、やっぱり親御さんがいた方がいいという結論です。ただ、今回のこのデータを見ても、実際に困ってる保護者はいるので、市としては、それを支援する必要があると思

ますが、それと同時に、子どもが病気的时候は、保護者のどちらかが仕事を休んで、面倒を見るということ、日本全国でも言われているかもしれませんが、そういう社会に向けて考えていただきたい。具体的にどうすればいいかっていうと、なかなか事業所の種類によって違うと思いますが、利用する必要がない方が、随分多い割合なので、かなり健全な状態かなと思っているのと同時に、困っている人には支援をして、困っている人が困らないような社会を目指していただきたいと感じました。

【議長】

その他いかがでしょうか。

【委員】

34 ページで、小学生の平日の放課後の過ごし方について、これは複数回答という形式でしょうか。

【サーベイリサーチセンター】

はい、そうです。

【委員】

全て足すと 100%以上になるので、そうかなと思ったんですが、例えば 62.8%が自宅というのは、小学生の 62.8%が全て自宅にいるわけではなくて、自宅に居る時と、他のところに居るということで、これはいくつでも制限なく回答してるということですか。

【サーベイリサーチセンター】

全ての回答になります。

【議長】

その他よろしいでしょうか。

(発言なし)

どうもありがとうございました。貴重な調査ありがとうございました。また後程出てくるかもわかりませんので、よろしくお願ひします。

それでは、以上で予定されていた案件は、すべて終了しまし

た。次に、次第3. その他について事務局から説明をお願いします。

●その他

【事務局】

(資料3(第3期弘前市子ども・子育て支援事業計画策定に係るスケジュール案について)に沿って説明)

【議長】

これについて何かご意見等ありますか。

(発言なし)

それではちょっと話が前後いたしますが、我々の任期が今回で終了します。

先ほど、皆さんにそれぞれ関連の深い内容の調査結果が報告されたかと思えます。そのことも踏まえて、子ども子育て支援事業について、それぞれの立場、あるいは、それぞれのお話に基づいて、ご意見、ご感想をいただければ、事務局としても、次に続く、良い案を作ることができると思えますので、順次、ご意見を伺えればと思えます。

【委員】

今日は中間報告にはなりますが、興味深い内容だったなと思えます。

自園を見ていて、本当に最近、ここ何年か、お父さんたちの送り迎え等の活躍というか、子育ての協力がすごく如実に出てくるようになったと実感しています。その中でも、お子さんが病気になった時に、どうしてもお父さんが仕事を休めないで、お母さんも感染症にかかったり、熱が下がっても夜にまた上がるとかで、お仕事も下手すると1週間ぐらいの長期で、お休みされてしまうお母さんも実際にいて、やはり子育てでお父さんが、すごく積極的に協力されるご家庭と、なかなかお子さんのお休みを取りにくい環境があると感じています。パパママ育休プラス制度もありますが、それがもっと浸透して、ご夫婦で仲良く子育てしてくれるふうに進んでくれればいいなというのが、私の率直な感想です。

せっかく、こういう調査をされたので、今後、何年かのスパ

ンで、この先見ていければいいかなと思います。

【委員】

こういう会議に出て、いろんな情報を得る中で本当に弘前ばかりではないですが、少子化が、全国的に問題になっているところを、どのように解決していくのかというのは、非常に難しいことだと思っておりました。ただ、先ほどの妊婦健康診査事業のところを見たときに、令和6年度の計画値が、令和5年度が761人に対して930人に増えているってところが、これは計画として、増やせる見込みがあるということなのかというふうに見ておきますと、子どもが増えていくという状況が、少し見えているのかなと感じました。今、私どもの保育園は、なぜか、非常に住宅が増えており、子どもの数も、市内の中では多いと言われている地区で、そういうところでも、移住者が増えているということではないですが、人数が少しずつでも増えているところが見越せるのであれば、すごく嬉しいことだと感じました。

【委員】

この中間報告を見て、現在利用中の定期的な教育保育事業で、私たちの幼稚園が、たった7.3%しかないということで、非常にショックを受けました。私、連合会の事務局をやっていますが、毎年、子どもの数がどんどん右肩下がり、少なくなっていくのが本当によくわかります。それで、この現在利用中の教育保育事業は、幼稚園がたった7.3%しかないんだなというので、私たちはもっとどうしたらいいのかという、すごく新たな問題を突きつけられたような、そういう感じを受けました。

ただ、問17で希望する定期的な教育保育事業では、幼稚園が23.8%とちょっとだけ上がっているの、そこにちょっとだけですが、光明があった、そういう感じがします。

【委員】

幼稚園は、共働きをされていても、お母さんが就労されていても、入園できるということを、常々、宣伝していますが、やはり人気があるのは、認定こども園・保育園ということで、幼稚園が果たして、弘前市には必要なのか、そういう存在なのかというので考えておられますが、これからも小さい、そういう希望がある方には、対応して、幼稚園の良さを活かしながら、子

育て支援を地域でも目指していきたいなと思っておりました。

また、病児保育についてですが、共働きをしていると、どうしても責任あるお仕事をされている方、お父さんがお休みを取れない、お母さんもなかなか取れないのが現状です。そういう社会になって欲しいなと私も思うんですが、実際、皆さんお仕事されてますとそういうのは難しいこともあるので、弘前市の中で、やはり病児保育とか病後児保育の医療施設とかが増えていくと、安心して、責任ある仕事をやっていけると思います。子育てと仕事の両立というのは、本当にこれは弘前市だけの問題ではありませんが、大きな問題なので、これから、そういう施設が増えていけばいいのかなと思いました。

あとは、弘前市でこういうデータを取ったということは、とても今の保護者のニーズが見える化されたと思います。小学校の中で、なかよし会のようなところがあったり、あとは児童センターとかがあったり、ゆったりと楽しく過ごせるような環境を整えるということも必要だと思いますので、その辺は、引き続き検討して、みんなで力を合わせてやっていければいいと思いました。

【委員】

これは、私の興味本位に過ぎないので、回答はなくても構わないです。前回からお話があったと思うんですが、小学生の放課後の部分で、登録者数と実利用者数に、差異があるとすると、先ほどの調査でもありましたけど、割と親は利用して欲しいけども、子どもが行きたくないから、利用しないで家庭で保護者の帰りを待つという実情もあるのかなと、ちょっと勝手に思いました。もし、そうなった場合に、どういった対策があればいいのかなと思いました。

【委員】

私の勤務している児童センターは、登録者数は180名です。それに、保護者の就労に伴って、7時半から、夜19時までの延長時間で預かりますという児童クラブの登録者数がそのうち83名います。現在の利用者は、少ない時は70名ぐらいなんですが、多いと100名を超えていますので、建物自体に対して子どもの人数がちょっと溢れてる状態で、工夫をしているところですが、そこも考えて、対応をお願いしたいと思います。

子どもたちに、熱を出した時、お家に誰かいるかって聞いたりするんですが、たまに、熱でも1人で過ごすこともあるご家庭の方もいらっしゃるのので、せっかくのこの弘前市の事業を、もうちょっと保護者の方にPRできるようなシステム、例えば広報ひろさきでも多分書いてたりするんでしょうけど、今LINEも活用するようになるので、そういうもので、もっと気軽にこういう事業やっていますよというPRを上手くしていければ、保護者の皆さんも助かるんじゃないかなと思いました。

【委員】

当園は、この6月から1戸建てで支援センターを運営しています。そこを運営している目的は、いわゆる産後うつになるお母さんの予防に努めることです。そもそも支援センターというところは、自分の子どもは自分で見るというのがずっと定着して来ました。だから、例えばヒロロの広場に子どもを連れて行ったときは、自分の子どもから目を離すことなく、保護者の責任で、その空間を楽しむというのが定着されていました。でも、今、うちで提供している支援センターは、お母さんがお昼寝をしたければ、職員がお子さんを預かって、お母さんだけゆっくり休んでもらって過ごすことで、夜、うつ症状にならないように、予防に努めるということをしています。かなりの方が通って来てくださり、午後の時間帯は、お昼寝をしていくお母さんが増えてきています。お父さんも一緒に来て、お昼寝をしている方もいらっしゃいます。

また話は戻りますが、生後4ヶ月までの乳児のいる全ての家庭というところが、すごく引かかかっていて、もちろん出生届を確認して、毎戸に連絡をして、訪問しているとは思いますが、例えば、「訪問していただかなくてもいい」とか、「来て欲しくない」というふうに言って、拒む事例もあったかと思うんです。だからこれ全てじゃないように思うんですね。そういった方の中に、産後うつになる要素が、もしあるのであれば、やはり水際として、今一度、このアタックの仕方は工夫していただけたらと思っています。

【委員】

医師会というのは、小・中学校に関しては、市の教育委員会から、学校医の推薦を依頼されて、医師会の会員の医療機関の先生が行ったり、あるいは医師会の中で、教育委員会の方と一緒に委員会を開いたりという機会があるんですが、未就学児

に関しては、こども家庭課とはあまり接点がないというか、医師会の方から何かをすることがないので、実は、私が、ここにいるのは場違いだと思っています。そう言うと身も蓋もないんですけど、医療に関すること、あるいは学校保健に関することとは、やはりちょっとこことは違うんですね。

もし、ここで私たちが、何か関与することがあるとすれば、いわゆる幼児教育をどうするかで、ご承知の方も多いと思うんですが、認知機能もそうだし、さらに非認知機能を高める教育が必要だというのが、再三やられていて、岩手県とかの方では、もう大々的に数年前からやっているということもあります。ただ、名前が子ども・子育て支援事業だから、その教育に関しては、ちょっとまた外れるのかなと思ひまして、そういう意味で、さっきちょっと乱暴な言い方で、医師会の代表がここにいるのは場違いだっという話をしました。

【委員】

本校では、小学校と児童館が近く、学校が終われば、グラウンドを通過して、すぐ児童館に着きます。35人しか児童がなくて、1年生から6年生まで、楽しく児童館で親が来るのを待っています。バスケのスポ少もあり、学校が終わって、児童館に行くと、ちょっと遊んだり宿題をして、時間になれば、スポ少に行ったりと、児童館と学校を行き来して、子どもたちは、放課後を楽しんでいます。

【委員】

学校に関係があるところとすれば、なかよし会といいますか、放課後児童保育のところだと思うんですけど、今も、とても楽しく過ごしているというお話があったんですが、私の前任校で、なかよし会を作った部屋が元のパソコン室という結構広いところなんですけど、そこに50人、60人という子どもたちが通っています。非常に正直言うと、狭いところでこの人数で過ごすのはちょっとかわいそうだなと。かつ小学校の子供たちなので、いろんな子どもがいます。すごくトラブルが多くて、支援員さんたちも、大変精神的に負担が多いかなと思っています。予算がないのでどうしようもないんですが、理想を言えば、学校の敷地内にちょっと箱物でも建てて、そういうところで、もう少し広くて、支援員さんも多く、子どもを見られるような環境が整うと、非常にいい環境になるんじゃないかなと。前任校にいたときは、児童センターにも子どもたちが通っ

ていて、保護者の方が心配するのは、小学校から児童センターまでの通う道の長さなんです。車から何から非常に危険で、不審者も出たりとか、いろいろあったので、校内になかよし会を作ったというところもあるんですけど、それだけではどうしようもできない部分もあって、非常に人が少なくて余裕のあるところと、非常に過密で、辛いところがあるのが現実かなと思って。子供の数が減ってると思うんですけど、今困ってるのか、今大変だという地域があるので、そこを何とか改善ができたらいいなと思いつつ聞いていました。

【委員】

本当にこのような機会に参加させていただくことになりました。大変勉強になることが多かったです。大学の方でも、幼稚園、保育園、こども園の実習だけではなくて、この弘前市の子育て支援の施策でも、実際にどのようなことをされているかということも、授業等を通して、また学生と一緒に学びながら、生かしていけたらと思っています。

【委員】

教育委員会の方でも、放課後の子どもの体験とか、学びを提供するという事業を行っており、地域の皆さんとか、弘前大学の教育学部の学生さんの協力を得て、提供してるところなんです。やはりコロナ以降、少しずつ増えてきているところもありますので、そういったニーズを把握しながら、いろいろまた拡充できるところは、していければいいかなと思っていました。

【委員】

すごく相談できる場所が増えたなという実感があって、実際、子どものことで相談に行くと、すごくよく聞いてもらえるんです。すごく傾聴が皆さん上手で、聞いてもらえてほっとする面もあるんですけど、その先の解決策っていうか、そういうのになかなか繋がらない。ただ話を聞いてもらって帰ってくるという感じで、多様なニーズに対する選択肢が、まだまだちょっと少ないのかなというのがあって、聞いてもらえて少しスッキリするけど、何かもやもやしたのは、残ってしまう感じがあるので、今後、ニーズ調査の結果をもとに、いろいろな選択肢を増やしていただけたらありがたいなと思いました。

【委員】

私も子育てしている父親の1人で、先ほどのアンケート調査をWEBで回答した記憶がありました。その際に、病児病後児保育施設の利用意向を聞かれたんですが、そういう場所がまずあるということを知らなくて、それをどこで情報発信してるのかがわからず腑に落ちなくて、子どもが病気になった時には、親が子どもの面倒を見るということが絶対みたいな感じになってしまっていて、それが例えばインフルエンザやコロナにかかった時に、どうしても休まなければいけないので、休むんですけど、私の立場もありますし、職場が難色を示したりとか、そういうこともあるので、父親も休めるようにはなってきたんですが、子どもが病気になった時の、職場の休みを取りやすくするような取り組みとか、啓発をして欲しいなというふうに感じました。

あとは、いろいろ会議をやってくださって、ニーズとか、こういうものが足りないかというのを汲み取ろうとしてるのは感じるんですが、その他の場所で、例えば、私、弘前市議会に陳情とか出したことがあるんですけど、結局、議員さんが読まないで、多分、配布されて終わって、議題にも上がらないということもありましたし、どうせ言っても無駄かなとか、何も聞いてくれないとか、そういった諦めの雰囲気もあります。アンケートをとって、これでこういうニーズ、こういう結果になりました、はい以上です、っていうことで終わるのではなくて、もっと先のことも見据えて、もう少しニーズを汲み取る努力や、子育て世帯が育てやすい社会、雰囲気を、作って欲しいなと思いました。

あとは、妻も言ってたんですが、ここで言ってもしょうがないと思うんですけど、産後とか子育てとか、子どもに関する予算をもう少し増やしたほうがいいんじゃないかなというふうに言っていましたので、それを付け加えておきます。

【議長】

無理やりご意見を伺ったと言う気もしますが、でも、こういう機会だから言えることもあるんじゃないかなと思いました。どうぞお許しいただければと思います。

私も2年間、拙い進行役を務めさせていただきましたけれども、大変ありがとうございました。これで私の役割を終わらせていただきます。事務局にお返しします。

	<p>【司会】 佐藤会長、委員の皆様、大変ありがとうございました。 最後になりますが、こども家庭課長の清野より委員の皆様へご挨拶をいただきます。</p> <p>(こども家庭課長より挨拶)</p> <p>○閉会</p> <p>【司会】 以上をもちまして、「令和6年度第1回弘前市子ども子育て会議」を閉会いたします。</p>
その他必要事項	会議は公開